

みどりひと



みどりの新聞 平成21年6月20日 発行 No.148

専門家に聞く

園芸ワンポイント

指導
南澤 乙亥
先生

みどりに関する専門相談は
塚山公園みどりの相談所
TEL 03-3302-9387
(毎週土・日曜日 午前9時～午後4時30分)



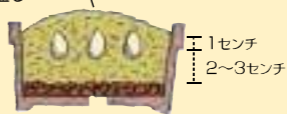
サギソウ (鶺鴒草) ラン科
本州から四国・九州までの広い地域に分布し、日当たりのよい湿地に自生します。白鷺の飛ぶ姿に似た美しい花からその名前がついたといわれています。

サギソウ (ラン科)

●冬から早春

サギソウは球根だけで休眠し越冬します。2月頃になると球根が売りだされるので植え付け(植え替え)はこの時期にします。

水苔は真ん中を盛る



●植え付け

浅めの鉢に赤玉土(中粒)を入れ、その上に水苔を2~3cm敷きます。球根を芽の部分を上に向けて2~3cm間隔に並べ、さらに1cmほどの厚さに水苔をかぶせて軽く押さえます。水苔は新鮮なものを水に充分つけてから固くしぼり、3cm位の長さで刻んで使います。

●春季

日当たりと風通しのよい戸外に置きます。(照り返しの強い場所や雨で泥のはねかえる所は避けましょう。)球根は芽を出すと同時に細長い根を数本伸ばします。



●夏季

花の楽しめる時期です。この頃になると匍匐根茎(ほふくこんけい)*1が伸びて先端に新しい球根をつくります。暑くなったら他の鉢を並べるなどして根元に日があたらないようにしてください。花の終わる頃

●秋から冬

葉が枯れてしまうまでに球根は大きく育ちます。根と匍匐根茎は枯れて自然に無くなり球根だけが残って再び休眠にはいります。鉢は戸外の日陰に置き、翌年の植え替えまで乾かさないように注意しましょう。

●通年

水苔が常に湿っているように水やりをします。受け皿に水をためたり、腰水(こしみず)*2をしてはいけません。
*1 匍匐根茎…全長にわたって地表を這い、かつ節から多くの根を出す茎。
*2 腰水…鉢を水を張った受け皿に入れ、鉢底から吸水させる方法。

●年間管理表

手入れ	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
育成状況		休眠			生育期			開花期					休眠
植え替え													
水やり		乾かさない		普通				多めに与える		普通		乾かさない	
施肥								球根を育てる					
花柄つみ													
置き場		戸外の日陰		日なた				花後は30%遮光する				戸外の日陰	

連載

すぎなみ イケてる池

小さな命をはぐくむ憩いのみぎわ

和田堀池 (都立和田堀公園)

公園といえば、まずイメージするのは「豊かなみどり」でしょう。しかしもう一つ、「池」も忘れてはなりません。水辺では多くの生き物の命がはぐくまれ、周囲のみどりや一体となって人々にやすらぎを与えてくれます。そこで今回は、区内の公園にあるさまざまな池にスポットをあて、その周辺のみどりを取り上げることにしました。まず最初は、善福寺川沿いにある都立和田堀公園の和田堀池をご紹介します。

で、あわせて周辺が公園として整備されました。それから約半世紀、いまや池の周囲は深い森におおわれ、水面に浮かぶ二つの島には神秘的な雰囲気。あたかも山奥の沼のような静けさと落ち着きをみせています。
初夏は、周囲の木立が一面の新緑に染まり、みどりと親しむには最適な季節でしょう。ソメイヨシノなどのサクラ類をはじめ、ウメ、イロハモミジ、ミズキ、クスノキ、ユリノキ、トウカエデ、ウリカエデ、マテバシイ、スダジイ、ケヤキなどが青葉のさわやかさを競っています。さらに木立の根元に目をやると、初夏ならではの色とりどりの野草が可憐な花を咲かせています。
また、水辺にはコウホネやヒメガマなどの水生植物をはじめ、クチボソやタナゴなどの小魚、コシアキトンボやアオスジアゲハなどの昆虫、さらに都会では珍しいカワセミなどの野鳥も生息し、小さな生態系の循環が見られます。



水辺には水生植物や昆虫たちも



水面に張り出した枝から尾状の果序をぶら下げるシナサワグルミ。葉には翼がある。

周辺には善福寺川に沿って大宮八幡宮、古代遺跡、区立郷土博物館などがあり、絶好の散策路となっています。散策ではぜひ和田堀池にも立ち寄り、みぎわの木陰にたずんで、しばし時の流れを止めてみてはいかがでしょうか。



新たに保護指定を受付ける期間が変わります。

杉並区では従来通年にわたり一定基準以上の樹木・生けがき・樹林について保護指定申請を受付けていました。今年度からは保護指定の新規受付を平成22年1月~3月までの3ヶ月間といたします。
この制度では毎年4月1日現在指定されている樹木等

について補助金の対象となり、10月1日以降に補助金の交付手続きを行っています。
詳細はみどりの事業係までお問い合わせください。
みどり公園課みどりの事業係
電話03(3312)2111(代)内線3595・3596

編集後記 「みどりひと」はみどりのボランティアと協働で編集しています。

- 四季折々という言葉がありますが、「みどり」はまさに四季折々。しかも年々変化する姿には、本当に見飽きません。(羽)
- インフルエンザの話題で持ちきりです。旅行も考えものです。(淳)
- 梅雨が明ければ楽しい夏休みもすぐです。「先憂後楽」を座右の銘にしています。(中)
- みどりのイベント2009の会場、柏の宮公園で、一面の緑の中で、目の覚めるような紅い栂榴(ザクロ)の花が印象的でした。(山)
- 春から初夏へ…一番華やかな季節ですね。道端には可愛い花が咲いています。ご近所のお庭の木には今年もたくさんの蕾が…さあ、お散歩にでかけましょう！(朋)
- 今回から編集に加わり、「園芸ワンポイント」を担当しました。南澤先生のお話しは、編集されなかった文章の数倍もあり、とても有意義でした。もっともっと聞きたくなるような、楽しいお話しでした。(武)

No.147のお詫びと訂正：○1面で紹介した大宮小学校近くにある木は「ウワミズザクラ」ではなく「イヌザクラ」でした。使用している写真はウワミズザクラです。
○3面掲載の地図内の「高井戸第二小」は、正しくは「高井戸第三小」です。

みどりの新聞 みどりひと148号 平成21年6月20日発行

編集/みどりのボランティア
編集・発行/杉並区都市整備部みどり公園課 〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ☎ 03-3312-2111
「みどりひと」は区ホームページでもご覧いただけます。 http://www.city.suginami.tokyo.jp/



—みどりのイベント2009—

みどりに親しみ、みどりと遊び、みどりについて考える

遊びを通してみどりについて考える『みどりのイベント2009』が5月24日(日)、柏の宮公園(浜田山2-5-1)で開催され、小雨が降る中、延べ1,500人の方がご来場くださいました。地域でみどりに関する活動をしているボランティア団体、区内の造園業者有志、浜田山町会・浜田山商店連合会、杉並区(みどり公園課)による17の企画が出展しました。樹名板作り、シュロの葉っぱ工作、竹細工などの各コーナーでは、子供も大人も、熱心にモノ作りを楽しんでいました。恒例の草花・苗木の販売、植物の育て方講座なども好評で、参加した人たちは思い思い楽しみ、笑顔の絶えない様子があふれていました。



浜田山柏の宮茶会



草花・苗木の販売



植物の育て方講座



シュロで作ったバッタ



竹細工



樹名板づくり



緑の歳時記

杉並区内でよく見かける帰化植物

ナガミヒナゲシ

(長実雛罌粟) ケシ科

地中海沿岸地方原産の越年生草本

高さは50~60cmになり、葉や茎に毛が長く、葉は羽状に細かく切れ込んで互生します。根生葉^{*1}はロゼット状^{*2}になります。春から夏にかけて長い花茎を出し、直径3~6cmのオレンジ色の4弁花を付けます。果実は直径8mm、長さ2~3cmの円柱形で、先端に8本の放射状のある柱頭が残ります。

1961年に東京で発見され、観賞用として栽培されることもあり、各地で野生化しています。区内では環状七・八号線はじめ、本郷通りなど比較的大きな道路端や空地で見ることができます。

果実が細長いことからこの名前がつけました。「ケシ粒ほど」ときわめて細かいことの代名詞に使われる種子は1個が0.6mmほどで、それが実の中にびっしりつまっており、秋から冬にかけて実が割れて飛び散るので、全部が発芽しないまでも繁殖力の旺盛さに驚かされます。

^{*1}根生葉…根ぎわから出る全ての葉

^{*2}ロゼット…短い茎に根生葉が集中してつき、放射状に見える形。バラ模様(ローズ)からきた語。



みどり探訪

—地域と共に守り、育てる貴重木—

貴重木とは、杉並区みどりの条例に基づき指定されている保護樹木のうち、特に大切に残そうとしている樹木です。

区内最大級を誇る

てきがいそう

荻外荘のクスノキ



大田黒公園から遠くない荻窪二丁目「荻外荘」。その敷地内の南側、善福寺川寄り駐車場に、区の貴重木に指定されているクスノキ(楠、クスノキ科)が2本あります。根元の幹周りはおおよそ5m、高さは20mを超え、関東大震災、東京大空襲にも被害に遭わず、周囲を圧倒してそびえ立っています。これほど自然な樹形で健康な状態を見れば、所有者の方の樹に対する想いがうかがえます。

5~6月頃小さな黄白色の花をつけます。葉には樟腦(しょうのう)を含み、傷をつけると香りのする広葉樹で、関東以南の暖地に育ちます。常緑樹ですが、春先には落ち葉が多く、近隣に迷惑をかけないよう努力されています。

この樹は、大正天皇の侍医(じい)であった入澤達吉博士の邸宅になる以前からここにあったと伝えられ、昭和12年に近衛文麿(このえふみまろ)氏が買い求められ、荻外荘として知れ渡りました。ちなみに、名称の「荻外荘」は「荻窪の外」という意味です。

時代に流されない威風堂々とした樹の姿に、安心感を覚えます。

※個人宅につき邸内には立ち入れませんが、道路からは観賞できます。